

しもつき

霜月 11 月。月の光、紅葉、少しずつ

秋らしい美しさががってきましたね。

「石膏デッサン」ってご存知ですか？

よく美術室などに置いてあるギリシャ彫刻の

白い石膏像、見たことあるかな。

あれを木炭（文字通り、木から作った炭）で

描くのを、「石膏デッサン」っていいます。

今日は「芸術の秋」にちなんで、

こんなテーマを…

石膏デッサンは布か食パンの白い
部分で消し易。



スクールカウンセラー来校日

11/5 (水)

11/12 (水)

11/17 (月)

11/25 (火)

12:30-17:30

「生き方作り」は石膏デッサンとそっくりさ！

白い石膏像を、木炭を使って大きな紙に描いていくのが、石膏デッサン。表面に見えてる線を、いくら上手に写し取っても、形は狂ってしまう。見えない面も意識に入れて、描きとっていかなくさいけない。光が作り出す濃淡などは、目を細めたりしながら上手く全体を見ないと、「錯覚」という落とし穴にはまる。全体を見渡すとたいして明るくない部分なのに、隣りに暗い部分が接していると、本当より明るく見えてしまう。そんなこんなでデッサンが狂ってしまうんだね。

少しでも形が狂うと、小手先の修正じゃどうにもならない。じゃあ、消すときはどうするか…。

実は、布でパンパンとたたくようにして、木炭の粉をはたき落とさないとはいけないの。そうすると、今まで描いたものは、だいたいきれいに消えてしまうわけ。これはなかなか勇気のいる作業。だって、また全部、一からやり直しだからね。たしかに、食パンやねり消しなどを使って、一部だけ消す方法もあるよ。だけど、何度もそれをする、紙の目がつぶれちゃって、結局は、上手く描き上げられなくなるから、要注意。

「生き方作り」は、これととっても似てる。これは、何度も何度もはたき落として、一から描き直しながら、納得のいく生き方を作っていくという作業だから。さらに難しいのは、「生き方の理想的なモデル」そのものも、自分で探さなくてはいけないこと。ほとんど完成に近づいていると思っても、「あ？これは自分が望んでいる理想のモデルじゃない！」と気づいてしまうことだってあるよ。自分では気づかなくても、「無意識」が「何か違うよ」と教えてくれる。あるいは、親身になってくれる周りの人が気づいて、教えてくれることもある。でもそんなとき、また一から「生き方」を描き直す勇気が出なくて、小手先の修正だけですませなくなることがある。それだけでなく、教えに対して、知らんぷりしたり、「これでいいの!!」と怒り出したりして、形が狂った「生き方」を、強引に押し通していく…ってことも、ありがちなね。

それでうまくいくならいいんだけど、「無意識」はそれをゆるさなくなるんだね。大きな事件を起こしたり、体調を変化させたり、あの手この手で「生き方」の描き直しを迫ってくる。大人になってから、そんなふうに人生の描き直しを迫られることは、よくある話。そうなる前に、自分で今までの「生き方」を見直して、形が狂っていたらパンパンと消して、新たに描き直す勇気を持ちたいね。描き直すのに不安や不満はあって当然。だけど、信じてほしい、人間の底力を。生きている限り、何度も何度も描き直せる。

生きているってことは、描き直す力があるってことなんだ…ということ。